



EL SALVADOR

学校名:千葉県立鎌ヶ谷高等学校

氏名: 渡辺 清史

[担当教科:地理歴史]

- 実践教科等: 地理 A
- 時間数 : 12時間
- 対象生徒 : 高校1年生および3年生
- 対象人数 : 300人

[1]単元名

エルサルバドルから考える世界

[2]単元の目的/目標 (ESD の能力・態度)

- ・エルサルバドルを事例に、国家・地域を総合的に考察し、理解する能力を身につける。
- ・エルサルバドルの学習を通じて、異文化理解・多文化共生の必要性を理解させる。
- ・開発途上国とその価値観を理解し、自らの生き方・あり方を考えるきっかけをつくる。

[3]ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

多様性:様々な価値観を知り、相互理解を深めることが世界の発展につながることを理解させる。

相互性:青年海外協力隊の話から、互いに学び合う重要性、必要性を認識させる。

連携性:国際協力には経済協力や技術協力など多方面の連携が欠かせないことを理解させる。

責任性:歴史的背景を学習することで、先進国が開発途上国に果たすべき責任について考えさせる。

[4]単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【自分の中の「世界」】 ① メンタルマップを描こう ② 北米・中米・南米 ③ エルサルバドルと日本	何も見ないで世界地図を描かせ、地図帳と見比べさせる。 アメリカ大陸の知識が北米に偏っていることを実感させる。 共通点が多く、「中米の日本」と呼ばれる理由を実感させる。	・ワークシート① ・地図帳 ・ワークシート② ・ワークシート③ ・世界地図 「日本てどこ？」	・作業への取り組み ・ワークシートの記述内容
2	【エルサルバドル入門】 Ⅰ. 国土・自然編 Ⅱ. 経済・文化編	エルサルバドル全般について学習する。国旗の紋章の解説は最後の「中米連邦」の導入となるようにする。	・ワークシート④ ・藍染、コーヒー ・ワークシート⑤ ・国旗、写真	・取り組む姿勢 ・プリント記述
3	【フォトランゲージ】	写真から分かることを話し合う	・⑥10枚の写真	・プリント記述
45 6	【映画「サルバドル」鑑賞】	映画を鑑賞してエルサルバドル内戦の実情を知る。	・プリント⑦⑧⑨ ・映画 DVD	・プリント記述
7	【エルサルバドル入門】 Ⅲ. 歴史編	前時のエルサルバドル内戦が欧米の影響であることを知る。	・ワークシート⑩ ・写真パネル	・プリント記述
8	【エルサルバドル入門】 Ⅳ. 現状と課題編	離散家族などの現状を知り、治安改善の方法を考える。	・ワークシート⑪ ・写真パネル	・プリント記述 ・意欲、発言
9	【途上国に学ぶこと】 ⑫日本が学ぶ事、できる事 ⑬⑭いま、私にできること	途上国は先進国が作ったことを知り、国際協力に参加する態度を育てる。	・ワークシート⑫ ⑬⑭ ・写真パネル	・プリント記述
10	【「しあわせ」って何だろう】 ⑮「しあわせ」って何だろう	元ニカラグア派遣青年海外協力隊員 中村由香教諭の講義	・ワークシート⑮ ・パソコン ・プロジェクター	・プリント記述 ・意欲、発言
11 12	【中米連邦の検証】 ⑯中米連邦の検証	中米連邦のメリット、デメリットを調べ、レポートする。	・ワークシート⑯ ・パソコン	・レポート(A4)

〔5〕授業の詳細

1 時限目：【自分の中の「世界」】

プリント①「メンタルマップを描こう」

A4用紙に何も見ないで世界地図を描かせる。地図帳と見比べて、実際より大きく描いた大陸、小さく描いた大陸を調べ、自分の興味関心が偏っていることを実感させる。参考として「TEXAN's MAP(テキサス人の世界観)」を紹介する。

ココがポイント！

自分の知識の偏りを実感し、他人と見比べることで、多様な世界観が存在することに気付かせる。エルサルバドルを身近に感じさせる。

プリント②「北アメリカ・中央アメリカ・南アメリカ」

アメリカ大陸の白地図上に、国名、都市名、特産物等、知っているものを全て書き込ませる。また、地図中にエルサルバドルがあることを伝え、塗りつぶすように指示する。自分たちの知識がアメリカ合衆国とサッカーの強い南米の国に偏っていること、中米の知識が皆無に近いことを実感する。

プリント③「エルサルバドルと日本」

エルサルバドルの小学生に協力してもらった「日本の場所にシールを貼った」世界地図を掲示する。お互い良く知らないけど、エルサルバドルは「中米の日本」と呼ばれるほど共通点がたくさんあることを伝え、具体的に説明し、これから学習するエルサルバドルへの興味・関心を深める。

2 時限目：【エルサルバドル入門ⅠⅡ】

プリント④「エルサルバドル入門Ⅰ（国土・自然編）」

国土、気候、産業、食について、パネル写真や現物を使って講義、プリントの穴埋めをさせる。

ココがポイント！

エルサルバドルについて地域性や歴史など全般に理解させる。前回と今回は「陽」の部分を中心に伝える。写真・現物で理解を助ける。

プリント⑤「エルサルバドル入門Ⅱ（経済・文化編）」

国名・首都・国旗・教育・経済・通貨・遺跡・観光地について、パネル写真等を利用して講義。

3 時限目：【フォトランゲージ】

プリント⑥「10枚の写真(フォトランゲージ)」

身体障害者の部屋、制服をもらいに来た少女、顔に入れ墨をしたマラス、先導する警察車両、車の荷台に乗る人々、庶民タクシー、防災教育、路上でバナナを売る人、ゴミ捨て場でココナツを飲む少年の写真を見て読み取れることを話し合う。

ココがポイント！

自由に想像させる。できるだけ様々な解釈ができる写真を使う。ただ講義をするより、一度想像させてから解説の方が印象深くなる。

456 時限目：【映画「サルバドル」鑑賞】

プリント⑦「サルバドル鑑賞Ⅰ」、鑑賞後に解説。

プリント⑧「サルバドル鑑賞Ⅱ」、鑑賞後に解説。

プリント⑨「サルバドル鑑賞Ⅲ」、鑑賞後に解説。

内戦を描いた映画『サルバドル』を鑑賞させる。

ココがポイント！

プリントの中に映画の理解を助けるような解説を入れる。映像と音楽の力で感情を動かす事が出来る。エルサルバドルの「陰」の部分を知る。

7 時限目：【エルサルバドル入門Ⅲ(歴史編)】

プリント⑩「エルサルバドル入門Ⅲ(歴史編)」

中南米にはマヤなどの文明が存在したこと、欧州に植民支配されたことで格差が広がり、前時に見た内戦につながったことを確認する。

ココがポイント！

植民支配によってできたプランテーション、その結果のモノカルチャー経済が途上国の発展を遅らせたことに気付かせる。

8 時限目：【エルサルバドル入門Ⅳ(現状と課題)】

プリント⑪「エルサルバドル入門Ⅳ(現状と課題)」

内戦の結果、国土が疲弊し、治安の悪化につながったことを理解する。離散家族の原因を知り、これからどうすべきかを考えさせる。

ココがポイント！

治安改善策を提案させ、他人の意見を聞くことで、問題を多角的に捉える力をつける。

9 時限目：【途上国に学ぶ事、途上国にできる事】

プリント⑫「途上国に学ぶこと、途上国にできる事」

初期医療や初等教育の重視、家族や友人に

ココがポイント！

緊急援助と持続可能な開発・援助の違いに気付かせる。先進国、そして、自分がすべきことについて主体的に考えさせる。

対する考え方など、日本が学ぶべき点に気付く。

プリント⑬「ハチドリの一しずく〜いま、私にできること」 あえて解説はせずに次につなげる。

プリント⑭「いま、私にできること」

ここまでで、何か自分でも「国際協力」したい、という気持ちを持たせて、ここからは具体的な手段について解説する。日々、環境に気を遣うことから、フェアトレード商品の購入方法、緊急援助としての募金、青年海外協力隊参加や外務省への就職まで、様々なレベルで貢献できることを知らせる。

10時限目：【「しあわせ」って何だろう？】

プリント⑮「しあわせ」って何だろう？

中米ニカラグアで過ごした2年間に感じた事を伝えてもらう。最初は自分と同じように「何かしてあげる」という上から目線であったが、お金やモノがなくても幸せに暮らす中米の人々と接し、「しあわせ」の価値観が違うことに気付いたことに共感させる。途上国の「負」の部分を強調すると「日本に生まれて良かった」で終わってしまうので、前回と今回で、「学びあうことの大切さ」や「本当の国際理解」について考えさせる。

.....
ココがポイント！

.....ある意味、エルサルバドル講座12回の中で、最も重要な部分でもあるので、あえて解説ではなく、質問の投げかけという形式にした。
.....

11・12時限目：【中米連合の検証】

プリント⑯中米連邦の検証

今年の大統領選挙のマニフェストで「中米連邦」の是非が争点になると仮定し、メリット、デメリット、どのレベルの結合にすべきかなどを調べて、レポート提出させる。前半は資料集めを中心とし、後半は資料分析、レポート作成とする。

.....
ココがポイント！

.....エルサルバドル入門の発展的な学習。インターネットを利用し、調べ学習の形式にする。「自分の視点」を必ず入れさせる。
.....

特別授業：【エルサルバドルで考えたこと】

プリント「エルサルバドルで考えたこと」

自分が担任しているクラス2年生41人に対し、エルサルバドル講座の総集編的な内容で実施。

.....
ココがポイント！

.....1回の講座なので、価値観の多様性に気付かせ、国際協力に積極的に参加する姿勢を持たせることを中心に展開した。
.....

特別講義：【エルサルバドルってどこ？な人のためのエルサルバドル講座】

千葉県高校教育研究部会地理部会の中で本研修の報告の時間をいただいた。

授業実践を中心に報告。過去の参加者もいた。

.....
ココがポイント！

.....ODA や JICA、本研修の意義を伝える。地理教員が対象なので、概略は省略し、実際に行かないと分からない情報を中心に報告した。
.....

〔6〕児童・生徒の反応/変化

- ・お金と幸せはもっと関係があると思ったので、驚きました。外国とかかかわると、新たな考えや生き方を学べるのが改めてわかりました。
- ・途上国に対する「かわいそう」の気持ちがなくなった。しあわせはお金だけじゃない。
- ・過去の謝罪的な一方的支援は国益にならないと感じていましたが、青年海外協力隊などによる支援はお金や技術よりも大切なものをもらっている。日本の為になると感じました。
- ・外国に興味はなかったけど、行ってみたいなと思えました。日本はもっと他国と関わったらいいな。
- ・世界を知って価値観が変わった。
- ・幸せを感じる事が発展の妨げになると思う。日本が先進国になったのは、幸せを感じない、つまり現状に満足しないことが新しい技術とつながったと思う。
- ・今まで途上国は劣っていると思っていたけど、長所はたくさんあって、先進国が学ぶべき要素がたくさんあることが分かりました。
- ・青年海外協力隊に行ってみたくと思うので、大学では語学力をつけたい。
- ・人と人のつながりが強いと、貧しくても幸せを感じるということが新鮮でした。
- ・発展が全てではないような気もした。発展すればできることも増えるけど、できなくなることも増えるのではないかな？ 助けてほしいと言われたら対等な位置で援助すべきだ。
- ・機会があれば外国に行きたい。その前に色々調べたり、いま何ができるかを考えたい。
- ・幸せとはお金や愛だとおもっていたけど、友達と楽しく過ごしたり、家族と過ごす時間が大切だと

思います。自分で考え、自由の行動できることは幸せなことだと思いました。

〔7〕授業実践の成果と課題

本校では、1 学期に全校をあげて「私は世界とつながっている」と題し、青年海外協力隊、ジェトロ、ハンガーフリーワールド、ワールドビジョン・ジャパン、チーム・ピースチャレンジャー、プラン・ジャパン、ハロハロ、セーブ・ザ・チルドレン、ピースポートなど多くの国際支援団体に協力していただき、19 講座で「100人村」等のワークショップを経験した。また、自分の担当クラスでは「世界一大きな授業」の中で途上国の実態について事前学習をしていたので、エルサルバドル講座を行った 2 学期には、ある程度の下地ができていた。授業実践にあたって、いくつかの目標を決めて臨んだ。

世界に目を向ける生徒を増やすこと。世界の平和的発展に貢献することは、日本の繁栄に繋がり、それは自分たちの生活、幸福にも繋がることを意識させること。さらに、いま自分に何ができるかを考えさせ、主体的に社会に参加する気持ちを育てることを意識して実践したつもりであるが、正直、成果はわからない。何年かして、「あの授業がきっかけで・・・」という卒業生が出てきたら、それだけで成果があったといえるかもしれない。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『わたしたちの地球と未来へ～エルサルバドル共和国』 愛知県国際交流協会 2009年
- ・『高校生のための国際協力入門』秋田市立秋田商業高校ビジネス実践・国際協力課編 アルテ
- ・『リーフレット エルサルバドル』 エル・サルバドル観光庁
- ・『世界と恋するおしごと 国際協力のトビラ』 山本敏晴 小学館 2006年
- ・『本当に意味のある国際協力論』 山本敏晴
- ・『国際協力』をやってみませんか?』 山本敏晴 小学館 2012年
- ・『ハチドリの一としく いま、私にできること』 監修・辻信一 光文社 2005年
- ・『私にできること 地球の冷やし方』 ゆっくり堂 2005年
- ・『まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実 飢餓・貧困・環境破壊』 明石書店
- ・『エルサルバドルを知るための55章』 細野昭雄・田中高 明石書店 2010年
- ・『オスカル・ロメロ～エルサルバドルの殉教者～』 マリー・デニスほか 聖公会出版 2005年
- ・『ヘスースとフランシスコ～エルサルバドル内戦を生きぬいて～』 長倉洋海 福音館書店 2003年
- ・『イノセントボイス～12才の戦場』
- ・『サルバドル～遥かなる日々～特別編』 オリバー・ストーン監督 アメリカ合衆国 1986年

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)

- ・エルサルバドルの立体地図(日本でいう国土地理院で購入)
- ・コーヒー(バリスタ世界チャンピオンの店で購入、そのインタビューは授業でも利用させてもらった)
- ・藍の染物(研修で訪れた工房で作成したもの。1時間目「日本との共通点」で紹介)
- ・国旗(大型のもの。中米連邦の導入のために国章に描かれている日付が見える必要があった)
- ・写真パネル(A3で印刷、ラミネート加工したもの33枚。パソコンが使えない教室でも利用できる)
- ・仮面、壺のレプリカ(7回目「エルサルバドルの歴史」でマヤ系古代文明を紹介するために使用)
- ・民族衣装(お土産屋で購入したもの。授業の「つかみ」として、着て登場する)
- ・「日本」にシールを貼った世界地図(帰国後の授業のために、現地の小学生に協力してもらった)

〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

今回の研修では多くのことを学びました。もちろん、研修でなければ訪れることができないような国や機関への視察は勉強になりましたが、そこで出会った JICA の専門家や青年海外協力隊員への取材は本当に刺激を受け、意義深いものになりました。今後も自ら学ぶ姿勢を忘れず、できるだけ多くのことを還元していきたいと思います。



4位	シナマフ	68位	韓国
5位	ベトナム	69位	イタリア
6位	コロンビア	71位	フランス
7位	キューバ	74位	英国
8位	エルサルバドル	75位	日本
9位	ブラジル	84位	香港
10位	ホンジュラス	89位	カナダ
11位	ニカラグア	102位	オーストラリア
12位	エジプト	108位	ロシア
		114位	米国